

《下水道の浸水対策によるストック効果の発現》

昨年の台風第19号は、全国各地で大きな浸水被害をもたらし、都内で初めて大雨特別警報が発令されるなど、長時間に大量の雨が降りましたが、下水道の浸水対策による貯留施設やポンプ施設のストック効果が大きく発現しました。

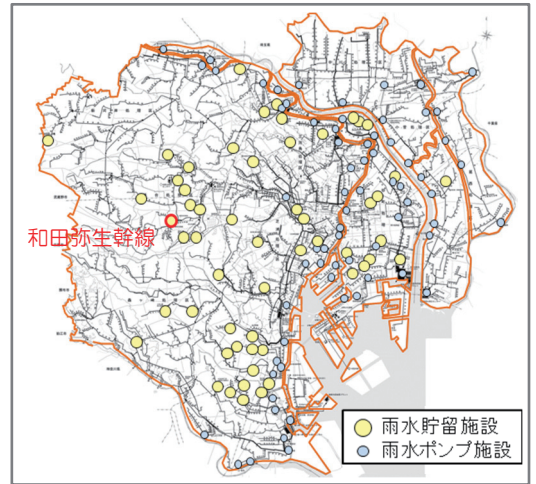
（ストック効果1）貯留施設

区部では、これまで計画的に整備してきた56か所の雨水貯留施設が稼働し、浸水被害の軽減に大きく貢献しました。

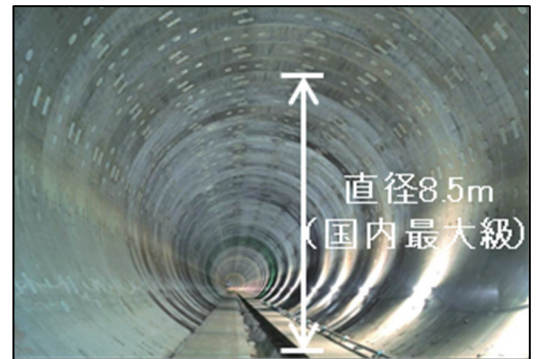
雨水貯留施設の合計容量は、25mプールの2,000杯分に相当する60万 m^3 にもなり、台風第19号では、貯留率が約6割に達しました。代表的な貯留施設として、下水道では直径8.5mの国内最大級の和田弥生幹線（貯留量15万 m^3 ）が、平成19年度の本貯留を開始して以降、初めて満水になり、繰り返し浸水被害の発生していた地域の安全性向上に大きく効果を発揮しました。

（ストック効果2）ポンプ施設

区部には70か所の雨水ポンプ施設が稼働しており、総排水量毎分約11万 m^3 の雨水排水能力を最大限に発揮して河川等へ雨水を排除しています。この能力は、1分間に25mプールの360杯分の排水能力となります。



（区部）雨水貯留施設と雨水ポンプ施設



和田弥生幹線（貯留量15万 m^3 ）

《渋谷駅東口地区の雨水貯留施設が供用開始》

下水道局では、浸水被害による影響の大きい大規模地下街を地下街対策地区として位置づけ、地下街への雨水の浸入を防止するため、整備水準をレベルアップ（1時間75ミリ）した下水道施設を整備しています。

（官民が連携した地下街対策）

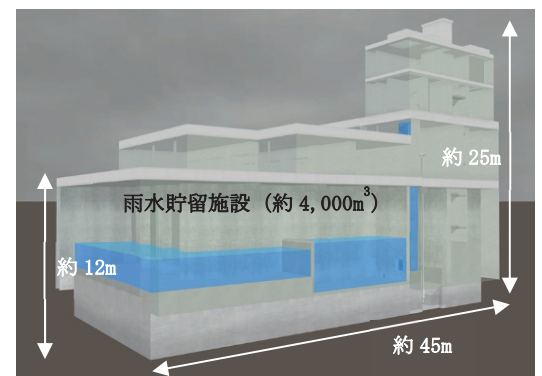
地下街対策地区のひとつである渋谷駅東口は、谷地形で降雨時に雨水が集まりやすく、地下街への浸水実績もあったことから、施設整備を計画しました。

渋谷駅周辺は、交通量が多く、地下には埋設物が輻輳していることなどから、下水道の施設整備の実施には厳しい施工条件でしたが、駅周辺の大規模再開発との連携により、4,000 m^3 の貯留施設と下水道の整備を実施しました。

再開発エリア内に整備する貯留施設や下水道管は開発事業者が整備し、これに接続する下水道管等については下水道局が整備を実施しました。

完成した貯留施設や下水道管等については、下水道局が維持管理を行います。

お客さまが安全に安心して暮らせる東京を実現するため、官民が連携して浸水対策を推進しました。



雨水貯留施設の規模



雨水貯留施設内

《東京 2020 大会仕様のデザインマンホール蓋の設置》

東京 2020 大会に向け、下水道の魅力発信や大会気運醸成等を目的として、東京 2020 大会仕様の 5 種類のデザインマンホール蓋を都内に設置しました。

5 種類のデザインマンホール蓋をライブサイト会場やパブリックビューイング会場などに設置することにより、下水道の魅力を発信するとともに、大会開催の気運醸成、シティドレッシング、レガシーにつなげていきます。



デザインマンホールのカラーは大会ルックの
藍・桜・紅・藤・松葉の 5 色



東京 2020 大会仕様デザインマンホール蓋
設置セレモニーの様子

設置場所：代々木公園周辺、日比谷公園周辺、夢の大橋周辺等の歩道 など

《若者向け東京下水道発信プロジェクト 東京地下ラボ by 東京都下水道局》

若い世代への下水道への関心を高めるため、新たな可能性や魅力を発信するプロジェクト「東京地下ラボ by 東京都下水道局」を平成 30 年度から実施しています。プロジェクトの参加者は学生で、「学ぶ」「作る」「発表する」の 3 つのステップで東京下水道の理解を深め、さらに魅力を発信するコンテンツを作成していきます。

令和元年度は「下水道の魅力を、クリエイティブの力で若者が再発見」をテーマに、参加学生はワークショップ、フィールドワーク、講演会で得た知識をもとに 30 秒動画を制作しました。



若者にも親しみやすいコミカルなキャラクター「下水番長」が誕生しました。動画『水にアツいよ！下水番長！』より



ワークショップ



講演会